

和良地域の現状と課題

- ・合併して15年、加速する人口減少と少子化・高齢化に歯止めがかからない（合併後人口3割減）。
- ・高齢者世帯が増加する中、安心・安全な暮らしが求められている。
- ・地域内に特筆すべき雇用環境や、産業基盤（商工観光を含む）が少ない。
- ・人、モノ、暮らし等、集落の維持と存続が、切実な課題となっている。
- ・和良鮎、蜆、オオサンショウウオなど、豊かな和良川の自然資源の観光産業への活用が求められている。
- ・濃飛横断自動車道の延伸、林道和良・明宝間の開通など、交通環境の変化にともなった交流人口の増加や、移住者人口の増加が期待される。
- ・集落点検事業の継続により、そこに暮らす住民らに「集落づくりにおける当事者意識」が芽生えてきている。

	H16.3.1	H31.4.1	減少率
郡上市全体	49,883人	41,592人	△16.62%
和良町	2,358人	1,662人	△29.52%

これまでの地域おこし実践隊派遣事業実績

- ・集落点検結果を踏まえた地域おこし活動の推進。
- ・月刊誌発行による情報発信。
- ・田んぼオーナーの実施による遊休農地活用と都市農村交流。
- ・和良鮎ブランド化事業による地域活性化。
- ・地域資源を活用した特産品開発。
- ・交流イベントの企画および開催。
- ・体験型ツーリズムの実証と推進。



清流めぐり利き鮎会で四度の日本一を獲得した「和良鮎」が住む郡上市和良町。



都市住民が参加する田んぼオーナー事業。田舎暮らしに興味をもたれる方も多い。



体験型ツーリズムの構築を目的に始めた関係者による推進会議。



体験型ツーリズム実証として開催された「あゆ釣り教室」。

「課題克服に向けて」地域おこし実践隊派遣事業計画（令和2年度～）

- ① 集落の存続と人口減少対策のために  
→集落点検事業のフォローアップと、市民協働センターサブセンター機能強化による集落づくり支援。
- ② 地域資源を活用した活性化のために  
→和良鮎による地域づくり、情報発信、既存資源の有効活用検討。
- ③ 地域住民、ふる里を誇れる和良町であるために。  
→市民協働推進、交流事業の拡充。
- ④ ふるさとの宝を活用した観光産業おこしのために  
→体験型ツーリズム事業化と民泊をあわせた事業の展開。